

[科目名] 自然史・地理情報と地域創造			[単位数] 2単位	[科目区分] 専門科目(展開科目)		
[担当者] 三浦 英樹		[オフィス・アワー] 時間: 講義後または適宜(事前のメール連絡で時間調整します) 場所: 研究室(大学院棟 1203 室)		[授業の方法] 講義		
[科目の概要] 教養科目の「地球科学」や基幹専門科目の「地形地理情報論」では、自然を理解し、把握するための基本となる地形・地質学と地理空間情報学の基礎について学んだ。この講義では、これらの基礎的知識をもとに、さらに自然環境全般とその歴史に視点を広げ、自然と人間との関係はどのようにあるべきかという現代的課題について、「地域」をキーワードに、以下の観点から考えることを目指します。 ① 物理化学の限界を踏まえたうえで、自然史科学の視点で自然と人間の間を捉えることの意味 ② 世界と日本で生じてきた様々な環境問題の内容と人間との関係 ③ 人文社会科学の視点で見た環境問題の考え方や自然科学および人間との関係 ④ 日本列島と青森県の自然環境・自然史の概要とその意義 ⑤ 青森県の自然公園・保護地域の特徴とそれらの自然史がもつ意義 ⑥ 自然と人と地域を結びつける取り組みと課題						
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] これまでに学んだ地球科学、地形地質学や地理空間情報学の知識を基礎として、さらに学問分野の壁を越えて様々な視点で自然環境の価値や読み方、楽しみ方を知ることは、自然と人間の間を捉えていく上で必要な基本的知識になります。それは、持続可能な私たちで人類が生き残るための社会的な課題に対する方策を検討し、地域創造への新たな発想やアイデアを生み出す源泉となるはずで。						
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] この講義では、以下の内容に到達することを目標とします。 ① 自然と人間の間を捉える上での「自然史」の意義を理解すること ② 人類が抱えてきた環境問題の内容と対応について理解し、それらの経緯に対する自分の考えを持つこと ③ 自然と人間の間を捉える上での人文社会科学の考え方の基礎について理解すること ④ 日本列島と青森県の自然環境・自然史に関する知識を習得して、その意義について理解すること ⑤ 青森県の自然公園・保護地域の知識を習得して、その意義について理解すること ⑥ 地域の自然や文化を生かした地域作りに関する基礎知識を得て、自分の考えを持つこと						
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]						
学部			学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 紙資料配付の目的は、講義中の気付き等を直接記入するとともに、毎回3時間分の予習・復習、および数回の中 間レポートを作成するためです。内容に興味なく、それらに対応できない場合は、無理に履修しないで下さい。						
[教科書] ありません。各回、必要に応じ、紙資料を配付します。レポート作成用に各自でファイルすることをお勧めします。残部の配付資料は、講義終了後は廃棄しますので、紛失時は、友人からコピーしてください。						
[指定図書] ありません。						
[参考書] 赤坂憲雄(2020)『民俗知は可能か』.春秋社. 石牟礼道子(2004)『新装版 苦界浄土』.講談社文庫. 岩田修二(2018)『統合自然地理学』.東京大学出版会. 大熊 孝(2020)『洪水と水害をとらえなおすー自然観の転換と川の共生』.農山漁村文化協会. 小野有五(2013)『たたかう地理学-Active Geography』.古今書院. 加藤尚武(2000)『環境倫理学のすすめ(増補新版)』.丸善出版. 加藤尚武(2000)『新・環境倫理学のすすめ(増補新版)』.丸善出版. 門田岳久(2023)『宮本常一〈抵抗〉の民俗学: 地方からの叛逆』.慶應義塾大学出版会. 清水 展・飯嶋秀治(2020)『自前の思想 時代と社会に応答するフィールドワーク』.京都大学学術出版会.						

社団法人 全国地質調査業協会連合会・特定非営利活動法人 地質情報整備・活用機構編 (2010) 『ジオパーク・マネジメント入門』. オーム社.

菅 豊 (2013) 『「新しい野の学問」の時代へ』. 農山漁村文化協会.

高木仁三郎 (2003) 『市民科学者として生きる』. 岩波新書.

巽 好之(2014) 『和食はなぜ美味しいー日本列島の贈りもの』. 岩波書店.

巽 好之(2022) 『「美食地質学」入門～和食と日本列島の素敵な関係』. 光文社新書.

谷 誠 (2023) 『矛盾の水害対策ー公共事業のゆがみを川と森と人のいとなみからたどす』. 岩波新書.

武内和彦・鷺谷いずみ・恒川篤史編著 (2001) 『里山の環境学』. 東京大学出版会.

羽生淳子・佐々木剛・福永真弓編著(2018) 『やま・かわ・うみの知をつなぐ 東北における在来知と環境教育の現在』. 東海大学出版部.

平野 勇 (2008) 『ジオパーク 地質遺産の活用・オンサイトツーリズムによる地域づくり』. オーム社.

松下和夫 (2022) 『1.5℃の気候危機』. EHESC 出版局.

松田裕之・佐藤 哲・湯本貴和編著 (2019) 『ユネスコ エコパーク 地域の実践が育てる自然保護』. 京都大学学術出版会.

村澤真保呂・牛尾洋也・宮浦富保 (2015) 『里山学講義』. 晃洋書房.

レイチェル・カーソン(青樹築一訳) (2019) 『沈黙の春』. 新潮文庫.

レイチェル・カーソン(上遠恵子訳) (2021) 『センス・オブ・ワンダー』. 新潮文庫.

【前提科目】

教養科目の「地球科学」と専門科目の「地形地理情報論」(基幹科目)を必ず先に履修して下さい。

【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)

- ① 第1回の講義で、講義全体の目的や評価方法を説明するので、履修を検討する場合も、第1回の講義には必ず出席して下さい。理由なく15回中4回以上欠席した場合は、F評価とします。出欠は、毎回、学生証を用いて機械的に行うので、学生証を忘れないように注意して下さい。
- ② 授業終了後には、「リアクションペーパー」を1週間以内に提出してもらいます(授業直後の休憩時間内でも研究室1203室前の回収箱のどちらでも可)。「リアクションペーパー」には、授業を受けて感じたこと、自分が考えたこと・感想、講義内容への質問や意見などを自由に記述してください。文章は、他人が読むことを前提に、わかりやすく論理的に書いて下さい。おもしろい、又は重要な意見・質問は、次の授業冒頭で紹介・回答します。
- ③ 「期末レポート」は、配付資料を十分に読み込み、指示する課題に対して記述してください。一般論や他人の借り物の考えではなく、自分の中にある問題意識と照らし合わせて、自分自身の深い考えや自分が思うところ、感じた事を記述することが大切です。
- ④ 「リアクションペーパー」では、感じたこと、自分が考えたこと、講義内容への質問や意見などを書いてもらい、記述内容のわかりやすさや論理性、および授業内容への関心や取り組む姿勢を総合的に評価します。「最終レポート」は、課題の要件を満たしていること、他人が理解できる文章を書いていること、自分の中にある問題意識や考えを自分なりの言葉で表現していること、を基準にして評価します。総合的な評価は、「リアクションペーパー」の評価60%、「最終レポート」の評価40%の比率で、すべてを合算して、合計100点満点(A:80点以上、B:70～79点、C:60～69点、D:50～59点、F:50点未満)で評価します。

【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】

人類の歴史700万年の中でも、ここ50年程の人類を取り囲む変化は、地球規模でみても、日本という国レベルでみても、過去に例を見ないような異常な大きな変化になっています。人間活動全般に関する広範な課題は環境問題に収束し、それは、人間活動の具体的な場所である「地域」にとっても重要な意味を持ちます。なぜ、どこがそんなに異常なのか、それを理解するためには、自然と人間の歴史を見つめ直して、両者の関係を考えていく必要があります。

また、身近に存在する自然や現象の不思議さや美しさを知ることは、自然の中で生かされている人間というものの存在を再認識する原点にもなります。この講義で何かの刺激を受けて、地球の中で生きている自分、自然の一部である人間という立場で、自分を客観視して、そのうえで、地域の役割を考え、地域研究について「良き問い」を立てられるような人になって欲しいと思います。

【実務経歴】

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): (1)イントロダクション: 自然史とは何か、地域創造との関わり 内 容: 全体のイントロダクションとして、この講義の目的と内容、背景について概説します。主なキーワードは、第四紀の生態系・環境変動、自然と人間の関係、自然観、ネイチャーライティングとエコクリティシズム、地球規模の課題と地域の課題の関係、人新世、地理情報システムの活用。
-----	---

第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ①日本の公害問題と地域と自然保護(1)</p> <p>内 容: 日本における公害、原子力災害を中心とした環境問題の歴史とそれに対する国家、地方自治体、企業、市民の対応、地域のあり方について考えます。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ①日本の公害問題と地域と自然保護(2)</p> <p>内 容: 日本における公害、原子力災害を中心とした環境問題の歴史とそれに対する国家、地方自治体、企業、市民の対応、地域のあり方について考えます。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ①日本の公害問題と地域と自然保護(3)</p> <p>内 容: 日本における公害、原子力災害を中心とした環境問題の歴史とそれに対する国家、地方自治体、企業、市民の対応、地域のあり方について考えます。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ①日本の公害問題と地域と自然保護(4)</p> <p>内 容: 日本における公害、原子力災害を中心とした環境問題の歴史とそれに対する国家、地方自治体、企業、市民の対応、地域のあり方について考えます。</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ②地球規模の環境問題とプラネタリーバウンダリーと人新世(1)</p> <p>内 容: 地球規模の環境問題である気候変動、生物多様性、循環経済に関連する概念を考えます。</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ②地球規模の環境問題とプラネタリーバウンダリーと人新世(2)</p> <p>内 容: 地球規模の環境問題である気候変動、生物多様性、循環経済に関連する概念を考えます。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ③自然と人間の関係に関する様々な考えと国内外の様々な取り組み(1)</p> <p>内 容: 風土、里山と農業遺産、文化の多様性、伝統知、在来知、生態知、自然災害、およびそれらに関する国内外の対応について概説します。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ③自然と人間の関係に関する様々な考えと国内外の様々な取り組み(2)</p> <p>内 容: 風土、里山と農業遺産、文化の多様性、伝統知、在来知、生態知、自然災害、およびそれらに関する国内外の対応について概説します。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): (3)環境倫理学と環境経済学と環境人文学の基礎</p> <p>内 容: 地球という惑星の中での自然と人間の関係を考察するための環境倫理学と環境経済学と環境人文学の基礎、社会的共通資本としての自然環境の意味について概説します。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): (4)日本列島と青森県の自然環境と自然史: 多様な地形・地質・土壌・気象・雪氷・海洋・植物・動物・昆虫・考古遺跡とその歴史(1)</p> <p>内 容: 日本列島の自然環境と自然史を理解するための第四紀地史の基礎をおさらいした上で、青森県を中心とした自然史について概説します。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): (4)日本列島と青森県の自然環境と自然史: 多様な地形・地質・土壌・気象・雪氷・海洋・植物・動物・昆虫・考古遺跡とその歴史(2)</p> <p>内 容: 日本列島の自然環境と自然史を理解するための第四紀地史の基礎をおさらいした上で、青森県を中心とした自然史について概説します。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): (4)日本列島と青森県の自然環境と自然史: 多様な地形・地質・土壌・気象・雪氷・海洋・植物・動物・昆虫・考古遺跡とその歴史(3)</p> <p>内 容: 日本列島の自然環境と自然史を理解するための第四紀地史の基礎をおさらいした上で、青森県を中心とした自然史について概説します。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): (5)青森県の自然公園・保護地域と自然史: ①概要、十和田・八幡平国立公園 ②津軽国定公園と世界自然遺産・白神山地、③下北半島国定公園と下北ジオパーク、④三陸復興国立公園、⑤ 青森県立自然公園</p> <p>内 容: 自然公園・自然保護地域の概要と国立公園、国定公園、県立自然公園、ジオパーク、世界遺産の概要と各々の自然史について学び、その価値と意味について考えます。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): (6)様々な課題を背景とした自然と人と地域を結びつける取り組み: エコミュージアム・エコパーク・エコツーリズムの考え方、自然体験教育と地域の魅力の発見</p> <p>内 容: エコミュージアム、エコパーク、エコツーリズムの事例を紹介し、地域における導入の可能性について考えます。</p>
試験	レポートのため筆記試験はなし